



広島から

広島でG7サミットが開かれた。それを
テレビで見たり思い出した。

父は広島出身で五人兄弟の末っ子だ
った。長男は早稲田へ行ったが胸を患い
在学中に早逝した。

祖父久吉郎は太いに嘆き「もう子を

東京なごへやうんと宣言した。それ
から弟二人に文武両道を奨励した。

末弟の父は柔道に励み体が大きく丈夫で
あった。成人になり徴兵検査を受けると前の
二年間、近衛兵候補として素行及び
思想の調査を受け続けたそうだった。

二十歳になった父は近衛兵に選ばれ上京
する。牛小は晴れな出来事として出征の時

街中の祝福を受けれた。

憧^{あこが}れの東京で全国から召集^{あつせい}された花の

近^{ちか}頃兵たちは文化の洗練を浴^{あび}いた。父の

クラシック、落語好きは東京の街で培^{つちか}り小

たものだらう。

一日は敗れた。

お前たちは故郷^{こきょう}へ帰^{かえ}れと命^{いのち}じらした。

他の若者たちには帰る場所がある。しかし
父は年小が無かった。故郷は焦土と
化していったわら。

父は長女が嫁に行った神戸で途中下車
し、そこから後半生を送ることになる。

終戦後次男の伯父は親戚に生存者が
いなかった広島へ調べに行っていたが
みんな被爆地
近くに住んでいたのが全滅だった。

結局 広島を離れていった縁者のみ生き
残った。

父は残りの人生におりー戦争につつは
沈黙を守り続けた。

故郷喪失者として生きつづけた。
ハイムロス

了

令和五年五月三日記

六月十八日書

